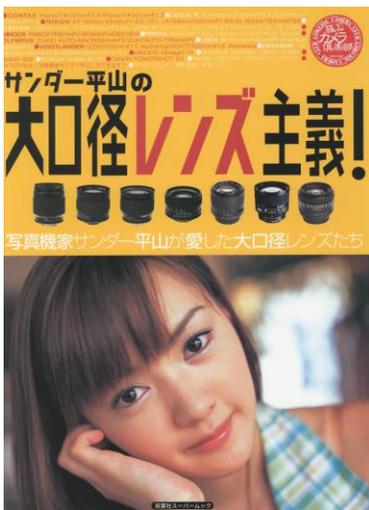


日本カメラ博物館 JCII ライブラリー
学芸員 宮崎真二

サンダー^{ひらやま}平山（1956-2011）は、写真専門学校を卒業後、広告・ファッションカメラマンのアシスタント、ビデオカメラマンなどを経て、1983年から本名の「平山真人」としてメカニズムライター活動を開始しました。1980年代は『アサヒカメラ』を中心に、交換レンズのテストレポートなどを寄稿しました。



『中古カメラ実用機買い方ガイド』



『サンダー平山の大口径レンズ主義!』

1990年代初頭からは、『CAPA』、『日本カメラ』に主軸を移し、筆名での執筆活動を開始します。

『CAPA』では、1991年から撮影技法に関する連載を担当しました。1990年代半ばから後半にかけては、クラシックカメラブームを受けて関連記事を執筆し、1995年1月号では赤瀬川原平とクラシックカメラについて対談を行っています。1996年3月には『CAPA 特別編集 中古カメラ実用機買い方ガイド』を著し、1997年に同誌臨時増刊として誕生した『中古カメラGET!』初期の号にも寄稿しました。さらに2000年から2002年にかけては、同誌読者欄の編集に携わったほか、カメラ、レンズ批評記事を連載していました。

『日本カメラ』では、1994年1月号から「焦点庵暗室日記」を連載しました。同連載は暗室作業初心者の失敗や戸惑いなどについて、自らの体験を基に語った内容が好評を博し、1997年12月号まで33回掲載されました。同誌ではその後も1998年12月号まで撮影関連の連載を続けました。また1995年には月例B部、2000年には月例カースライド部門の審査を担当しました。

このほか、2003年に双葉社から発売された『極上カメラ倶楽部 Vol.2 サンダー平山の大口径レンズ主義!』では、インタビュー「『写真機家サンダー平山』ができるまで」にて、カメラ遍歴や作品へのポリシーなどを詳細に語っています。

平山は自ら「写真機家」と名乗り、JCIIが選定する日本の歴史的カメラ審査委員を1990年より20年以上にわたってつとめるなど、「カメラが好きじゃないと写真はうまくならない」（『中古カメラ実用機買い方ガイド』）として、カメラ、レンズに対する愛情を込めた辛口批評、そして独特の風貌と語り口で人気を集めました。